

アライグマによる被害を防ごう 農作物への被害防止対策を学ぶ

近年、津軽地域を中心に外来生物であるアライグマによる被害が増加しており、昨年、市内でも18件のスイカなどへの被害が確認されています。6月12日、県、市、鯉ヶ沢町が森田公民館で今後の被害防止に向けて研修会を開催し、生産者や自治体、農協関係者ら約60人が参加しました。

研修会では、関西野生生物研究所の川道美枝子代表が講師を務め「アライグマは天敵がいないので対策を講じないと爆発的に増える。農作物の被害だけでなく、民家を壊したり、人への感染症の危険など問題は深刻です」と強調。被害防止のために箱わなを設置して近隣自治体が連携しながら防除対策を取り、継続する必要性を呼び掛けました。この後、参加者は昨年被害を受

けた鯉ヶ沢町のスイカ畑やアライグマが住みついた小屋を視察し、箱わなの仕掛け方などについて学びました。

アライグマによるスイカの昨年の食害。丸く穴を空けられ中身をくり抜いて食べられるのが特徴



アライグマの生態や被害防止対策を説明する川道代表



アライグマの食害が発生した鯉ヶ沢町の現地を視察

アライグマの特徴

アライグマはもともと北米大陸に生息する動物です。日本には1970年代に主にペットとして輸入されましたが、成長すると外見の愛くるしさとは逆に性格は凶暴であるため、飼い主が捨てたことにより野生化してきました。アライグマは繁殖力が強く、天敵がいなことから定着し、全国規模で生息分布を広げています。

- ・体胴長（鼻からお尻）40～60cm、体重4～10kg
- ・食性は雑食性。夜行性で、昼間は樹洞や巣穴、家屋の屋根裏、作業小屋、廃屋などで休息する。



写真提供：環境省

アライグマに関する情報をお寄せください

- アライグマと思われる動物を見た
- アライグマと思われる足跡を見つけた
- アライグマと思われる農作物への被害を受けた

これらの場合は市役所農林水産課（電話42-1109）にご連絡ください。

状況に応じて箱わなを設置します。

- ・設置期間は原則30日間
- ・エサ代は自己負担となります
- ・数に限りがあるため、お待ちいただく場合があります



箱わな

設置には原則、狩猟免許が必要です

アライグマの見分け方（後足跡）

提供：農林水産省 野生鳥獣被害防止マニュアル



アライグマ



タヌキ



アナグマ

福島市長らが生産者を激励

りんご、メロンの生育状況を視察

今春の低温の影響による農産物の生育状況を調査するため、6月3日、福島市長、山本清秋議長、市議会経済常任委員ほか関係者が市内のりんご園とメロン畑を視察しました。

森田地区の原田元雄さんのりんご園では、低温の影響で例年に比べ開花が10日遅れた「ふじ」の状況を確認。県農業普及振興室分室の長内主幹が「開花が遅れると小玉化し、安値になる傾向がある。大玉となるよう早期摘果に努めていただきたい」と呼び掛けました。その後、一行は



りんごの生育状況を説明する原田元雄さん（左）

出来島地区の新岡良さんのメロン畑を視察。盆前に出荷するため5月1日頃に定植した苗が低温により活着不良に陥り、全体の15%に及ぶ約千本の苗を植え直した状況を確認しました。ごしよつがる農協の片山和善営農指導員は「植え直しにより苗が不足し、出荷量の減少が懸念される」と話していました。



植え直しが行われたメロン畑を視察する福島市長

地元の観光名所を満喫

つがる市定期観光バスツアー

市内の名所を巡る定期観光バスツアーが6月4日から30日まで行われました。4日、市役所前で行われた出発式にはツアー客や関係者ら約30人が参加し、市観光協会の伊藤良二会長が「つがる市の自然や歴史を満喫しながら豊かな一日を過ごしてください」とあいさつ。参加者一行は、ベンセ湿原に到着すると咲き始めたニッコウキスゲやカキツバタの中間をゆっくり散策しながら初夏の景色を満喫していました。ツアーに初めて参加した太田静子さん（木造）は「ベンセ湿原に来たことはあったが、ツアーではガイドの方から花や生き



見頃を迎えたベンセ湿原のニッコウキスゲ（6月13日）

物のことを詳しく教えてもらったのでよかった」と話していました。一行は、森田歴史民俗資料室や日本最古のりんごの木など市内の観光スポットを巡り、ツアーを楽しんでいました。ベンセ湿原では、7月にはノハナシヨウブが見頃を迎え、季節の移り変わりを見せてくれることでしょう。



出発式での記念撮影



森田歴史民俗資料室で石神遺跡に触れる